

かぶとやま こ ふん
11. 兜山古墳

所在地：鯖江市神明2丁目6037-2ほか

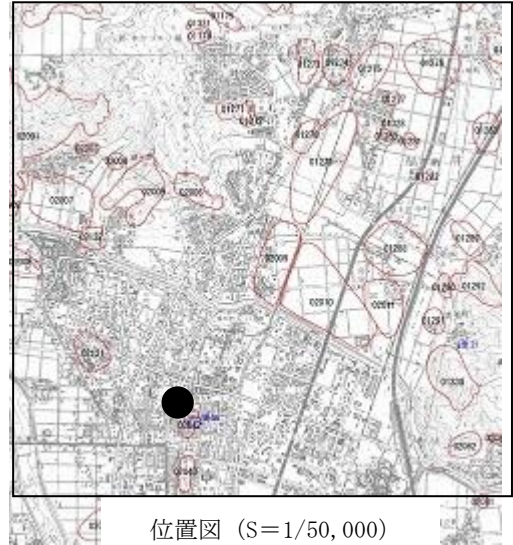
調査原因：史跡整備事業にかかる範囲内容確認調査

調査期間：平成30年7月18日～9月30日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：約48㎡

時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

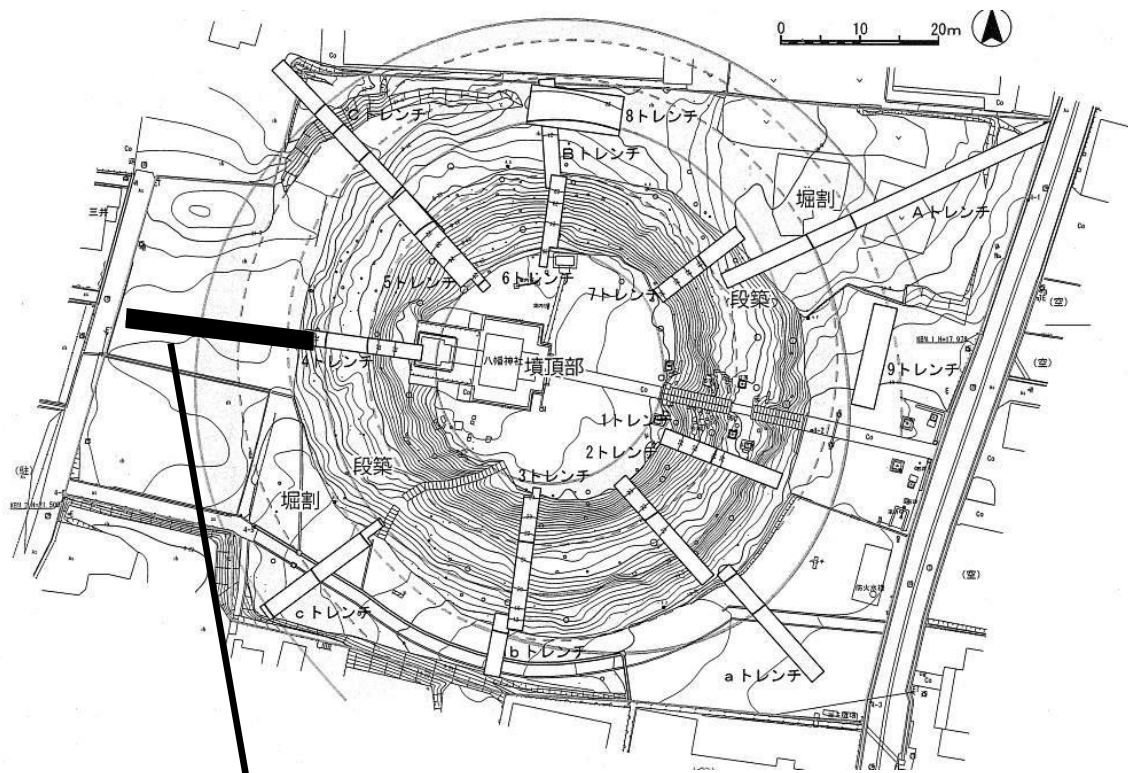
調査の概要 昭和52年に国の史跡に指定された兜山古墳は、本市と福井市境にある経ヶ岳南麓から市南部の鯖江高校付近まで延びる鯖江台地の東端に位置します。これまで3次の調査が実施され、直径約70m、堀割を有する二段築成の円墳であることが判明しています。今回の調査は、史跡の環境整備事業にかかる基礎資料（墳形・築造時期）を得ることを目的としたもので、これまで未調査であった墳丘西側において調査を実施しました。

遺構 東西方向に幅2m、長さ約24mのトレンチを設定し調査を実施しました。トレンチ中央付近から墳丘側にかけて検出面で幅10.3m、深さ0.4mを測る南北方向の大きな溝状遺構を検出したほか、トレンチ西端では有機質土が堆積した落ち込み状遺構を検出しました。このほかに検出した遺構としては土坑や細長い溝などがありますが、溝状遺構が埋まった後に掘り込まれたもので、いずれも陶磁器片やガラス片、瓦片などを含んでいました。

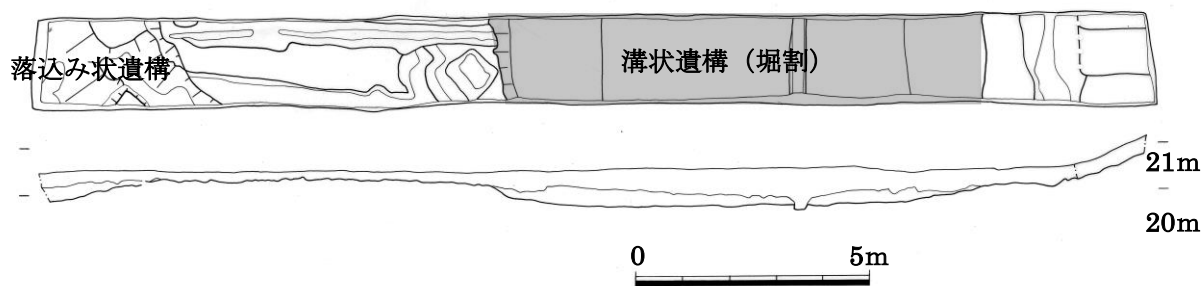
遺物 古墳の築造年代を示す遺物は出土しませんでした。

まとめ 検出された大きな溝状遺構は、その位置や規模、方向性から判断して本墳に伴う周溝（堀割）と考えられます。調査前から想定していたとおり、墳丘周囲を円形にめぐる溝の存在が確認されたことによって本墳が造り出し等をもたない円墳であることが確定しました。西端の落ち込み状遺構については、その位置や安定しない法面の形状、堆積土などから判断して当地を東西に流れていた旧河瀬川の一部と推測されます。このほかの遺構については、出土遺物などから近代以降のものと考えられます。このように西側墳丘下段から堀割付近の地山は近代以降の工場や住宅建設時に削平されたようですが、これら開発行為がなされるまで堀割は窪地として残っていたものと推測されます。残念ながら今回の調査においても古墳時代の土器や埴輪の出土はなく、本墳の築造年代については今後の課題として残りました。なお、これらの調査成果については今後の史跡整備事業に反映していく予定です。

(深川義之)



兜山古墳平面図・調査区位置図



調査トレンチ平面図・断面図



溝状遺構 (堀割) 検出状況



溝状遺構 (堀割) 完掘状況